

## 2 生きづらさを抱える若者たちの変化について

### みくさんのケース

みくさんの抱える生きづらさ

ひとり親

家出

一時保護所

高校中退

生活困窮



ピア相談員みくの物語動画

#### 本事業参加前の状況

高校を中退したみくさんは、知り合った男性のもとで生活することで実家を出ることになります。会社員の男性のもとで家事手伝いをしながら生活をしていましたが、その共同生活の場へ男性の知り合いで、家をなくした新たな別の男性と一緒に過ごすことになったり、職場でコロナ感染者が出たことによって会社員の男性がテレワークになったことから、共同生活が息苦しくなり、再び家出生活に。本事業で安全なところで夜を明かせること、また所持金がなくなっていく中で収入が必要であったことから、深夜のネットアウトリーチ・オンラインサロンのピア相談員となります。

#### 本事業での様子

深夜のネットアウトリーチ・オンラインサロンでは、主に自分と似た境遇で家出をしたと考えている子どもや家出をしている子ども若者にアプローチすることが多くありました。活動を重ねる中で、リアルタイムなやりとりを必要とする SNS よりも、自分自身も家出経験をしている中で使いこなしていた「Yahoo 知恵袋」でゆっくり長文で返していくやりとりを好んで使っていました。また性被害に苦しむ子どもたちを見つけ出して、約1年間のピア相談員の活動中に二回も性被害を受けていた子どもを救うきっかけを作ってくれました。また地域サロンのアウトリーチ活動にも積極的に参加し、年配のスタッフから声をかけてもらう機会もたくさん持てました。

日頃の勤務中はリラックスして取り組んでおり、現在の自身の生活相談や悩みについてもソーシャルワーカーに熱心に話す時間を設けることも多く、この活動を通して自身の課題と向き合う時間も多くなりました。

#### 本事業を終えて

現在は、他団体のサポートを受けながら住まいを確保し、高校卒業認定の取得のため勉学に励むほか、いくつか自分が過ごしやすい地域の居場所も見つけて、そこでもピアスタッフとして活躍しています。就職に向けても動いていますが、できれば事業終了後、この事業を引き継いだ新たな事業で引き続き力をつけてもらえればと関わってきたソーシャルワーカーは考えています。

### かなえさんのケース

かなえさんの抱える生きづらさ

ひとり親

ヤングケアラー

不登校

いじめ

一時保護所

大学中退

生活困窮

DV



ピア相談員かなえの物語動画

#### 本事業参加前の状況

大学を休学した後に転部して気分を切り替えて復学したものの結局、中退することになってしまったかなえさんは、生活と奨学金の返済のためにいくつものバイトを掛けもちしながら生活していました。しかし、その生活に疲れ気味が落ち込みがちになる中ですべてのバイトをやめて休養することにしました。ちょうどその頃に高校時代からつながりのあったこどもソーシャルワークセンターに顔を出してきてくれたことがきっかけで、深夜のネットアウトリーチ・オンラインサロンのピア相談員となります。

#### 本事業での様子

ちょうど深夜のオンライン活動がはじまったばかりの時期からピア相談員になってくれたことから、最初はネット上でいかにしんどさを抱えている子どもたちを見つけていくのか、またピア相談員自身がネット上で困りごとをつぶやくとどのような反応が見られるのかなど実験的な取り組みにソーシャルワーカーと共に試行錯誤を重ねてくれました。活動も二年目に入っていく中で、トーク系アプリを中心に、しんどさを抱えている子どもたちと明け方までおしゃべりをしてくれる姿をよく見かけました。

一方で自身の生活もこのピア相談員として活動している間に目まぐるしく変わっていきました。当初は遅刻をすることや当日に欠席をすることも多かったのですが、同棲していた DV 彼氏との生活を解消すると共に福祉の支援を受けながらの生活がはじまったあたりから生活が安定しはじめました。メンタルケアをきちんと受け、それによって大学中退した後の自分の生活を考える余裕ができてきたことが、活動中のソーシャルワーカーとの相談の中で見えてきました。

#### 本事業を終えて

年度途中ではありましたが、新しい生活が滋賀から通うには遠いところではじまったことから、ピア相談員の活動について彼女の中で一つの役割を終えて、無事に終了することになりました。かなえさんにとってはこの活動は就労体験よりも生活相談の場として大きな意味があったように活動を支えてきたソーシャルワーカーは考えています。

## 2 生きづらさを抱える若者たちの変化について

### まきさんのケース

まきさんの抱える生きづらさ

不登校

ひきこもり

対人不安

社会体験不足

生活困窮



ピア相談員まきの物語動画

#### 本事業参加前の状況

初年度、高校内居場所カフェでのアウトリーチ活動を行っていたピアスタッフが家庭の事情で二年目は参加できなくなったことから、新たなピアスタッフを探していました。そのとき、こどもソーシャルワークセンターとのつながりのある「セレンディップ」で生活・自立訓練を受けて、就労できる時期にきていながら、アルバイトをはじめ一歩を踏み出すことができないまきさんを紹介されました。卒業した学校での高校内居場所カフェのピアスタッフの話をしたところ、挑戦したいとの返事で活動をはじめることになりました。

#### 本事業での様子

高校内居場所カフェでのスタッフ活動は、はじめは緊張で固まり、なかなか思うように動いたり居場所にやってくる高校生と関わったりできない様子でしたが、真面目に仕事に向き合おうとする姿勢が強く、絵を描く特技を生かすなかで、やがて回数を重ねるうちに場や人への安心感を覚え、自ら高校生と関わるようになり、笑顔も増えていきました。また夏頃から、高校内居場所カフェだけでなく、あおぞらカフェなどの地域のサロン活動にもピアスタッフとして参加するようになったところ、真面目な仕事ぶりを年配のサロンのスタッフに褒めてもらうことが多くあり、高校内居場所カフェだけでなく、こちらの活動へも積極的に楽しんで取り組んでくれました。そのようにまきさんの働く姿を一目みたいとセレンディップの仲間たちもサロン活動にやってくるなどの姿も見られ、まきさんがサロンのお客さんを広げる役割も担ってくれました。

#### 本事業を終えて

本事業を通して、人との関わりにおける成功体験や自身の成長・変化を自覚する場面が多々あったことから、自他ともにまきさんの世界が広がり社会や新たな人とのつながりができていったことが顕著に感じられたことや、セレンディップの支援もあって、年度末にはついに就労につながることができました。これによってまきさんの本事業でのピアスタッフとしての活動は無事に終わりました。

### りょうたさんのケース

りょうたさんの抱える生きづらさ

大学中退

ひきこもり

対人不安

場面緘黙

社会体験不足



ピア相談員りょうたの物語動画

#### 本事業参加前の状況

大学進学後のある日、突然大学へ行くことができなくなりひきこもるようになってしまいました。やがてひきこもって生活する中で外の社会とのつながりも途絶えてしまいます。ひきこもり支援センターから紹介されて、こどもソーシャルワークセンターでの居場所活動に参加するようになったりょうたさん、ゲームがとてもうまいことから、ある時に中学生の活動にボランティアで参加したところ、中学生といい時間を過ごすことになりました。この仲良くなった中学生が一月ほど入院することが決まったことから、入院中にオンラインゲームを一緒にしようというところからりょうたさんのピアスタッフ活動がはじまりました。

#### 本事業での様子

居場所活動で自分のペースで過ごしていたりスタッフとの関わりだけのころは、ほとんど話をするのがなかったのですが、入院中の中学生のオンラインゲームを使ったアウトリーチ活動をスタートしたことをきっかけに、りょうたさんにとってセンターは居場所でゆっくり過ごす場から、就労体験をする場が変わっていきました。ちょうどそのころ、不登校の小学生の家に家庭訪問活動をしていたこともあり、スタッフがりょうたさんに声をかけたところ関心をもったことから不登校の子どもへのアウトリーチ活動にも参加するようになりました。ひきこもり状態ということでしたが、この間、自身の都合で休むことはありませんでした。アウトリーチ先の子どもとゲームを通した関わりで協力をしながらゲームを進めたりする中で、子どもからの要望に応えることも増え、笑顔も交えながら取り組んでくれました。

#### 本事業を終えて

現在は、センターに来た時のことを考えると驚くほど笑顔でコミュニケーションを交わすことが増えてきました。就労支援事業ですが、家庭での経済的な事情があまりないこともあってか、就労して一人で生活するというイメージをりょうたさん自身はまだ持てていないようなので、この事業を引き継いだ新たな事業で引き続き力をつけてもらえればと関わってきたソーシャルワーカーは考えています。